

皆さんは給食を残したことがありますか？私はいつも給食を残さないように心がけています。そんな私は、小学校の頃から給食のたびに残す人が多いことが気になっていました。そこで今回は、給食を通して食べ物のことについて考えてみました。

ある日給食を残そうとしていた友達に、「何でもう食べないの？」と聞いたら、友達は「だってこんなに食べられないもん」と答えました。最初から自分の食べられる量だけをよそってもらい、クラス全体で、各クラスに配られたぶんを食べるようにすれば、残飯の量は減るのになあ、と思いました。

例、給食がひとつの学校で1日に食缶1杯分、20リットルが残されたとします。もしこれだけの給食が毎日残されているとしたら、1週間で100リットル、1ヶ月で440リットル。三鷹市内の小中学校22校分全部をあわせれば、1ヶ月で9680リットル。これは大型ダンプカーなら一台ぶん。お風呂なら300杯分にもなるのです。

ところで私がなぜ食べ物を残さないのか、改めて考えてみました。うちでは小さい頃から出されたものは残さず食べる。それが当たり前でした。だから「食べ物を残してはいけないんだ」と思って意識して残していないと言うより、もうそれが当たりまえになってしまったから、残していないという方があっているかもしれません。

そのことは父の仕事にも関係していると思います。父は日本ユネスコ協会連盟と言うところで働いています。ユネスコは、国連教育科学文化機関といって教育・科学・文化の国際協力を通じて平和な世界を作ることを目指しています。父は今貧しくて学校にいけない大人や子供達が勉強をできるようにする仕事をしています。

最近、アフガニスタンや、ベトナムへよく出張していますが、そこで父は勉強したくてもできない子供たち、ご飯が食べたくても毎日、食べられない子供たちを沢山見ているそうです。だから私の家では毎日、朝ご飯を食べる前に「世界中の人々がお腹いっぱいご飯が食べられますように」とお祈りをしてご飯を食べ始めます。

この「ご飯が食べたくても食べられない人たちが」がいったい世界にどのくらいいるのだろうか？と思いその数を調べてみました。今世界には60億人の人々が生きていますが、なんとそのうちの5億人が毎日ご飯を食べることができないのです。ずっと前に私たちと同じ人間なのにご飯を食べられない人がいると知った時も驚いたけれど、今回、この世界に5億人という想像できないくらいの数の人がご飯を食べられないと知ってさらに驚きました。

一方では食べ物がどんどん捨てられており、また一方では食べるものがなくて今にも死にそうな人がいるという、この世の中はおかしいのではないかと思います。

私は、自分が飢えている方の人になったつもりで、想像してみました。お腹がすいて今にも死にそうな私は、一件の家の前を通ります。家の中からはおいしそうなおいがしてきました。窓からのぞいてみると中では、みんながご飯を食べています。そのご飯を「みんな全部食べてしまおうんだらうなあ」と思いながら見ていた私の目の前で、「もう食べられないから」と言って、少しずつ残したとします。お腹がすいて死にそうな私が見たらとても頭にくると思います。そして、そういうことが世の中でおこっていると知ったら今の自分の立場から考えた時よりもさらに強く、とても悲しく感じると思います。

この問題をどうすればいいか。これは一人で何かをただで、解決できるようなものではないと思います。一人ひとりが普段から食べ物を残さないように心がけていく、などしなければ変わって行かないと思うのです。一人ひとりが少しずつ気をつけることによって、大きなものを減らして行く、それが世界での問題の解決にもつながるのではないのでしょうか。

皆さんも一緒にやっていきませんか？

